

## 令和3年度 第3回新潟市北区郷土博物館協議会 会議概要

日 時：令和4年3月22日（火） 午後2時30分～4時

場 所：新潟市北区役所3階 豊栄地区公民館大講堂

出席委員：8名

内山真野子、貝沼良風、北上あつ子、倉地一則、小林久哉、  
島 吾郎、武仲浩美、本井晴信 (五十音順、敬称略)

欠席委員：なし

傍 聴 者：なし

事 務 局：(北区郷土博物館) 川崎裕子 館長、 芹野若子 (主査)  
神田直子 主査 (学芸員)、  
曾部珠世 会計年度任用職員 (学芸員)  
齋藤加奈 会計年度任用職員 (学芸員)

(北区地域総務課) 束理 守 課長

資 料：当日配布 (別添)

### 会議のあらまし

- ・令和3年度第3回目の協議会を開催した。
- ・島会長の進行により、別添の会議次第に沿って行われた。
- ・議事の項目ごとに、別添の配布資料に基づいて、博物館が説明を行い、それに対して委員から質疑や意見などが出された。

### 1 開会

(司会)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 神田

ただいまから令和3年度第3回新潟市北区郷土博物館協議会を開催します。

本日は委員8名全員が出席され、会議は成立しています。

傍聴者はありません。

本会議の概要を、後日、HP等に公表する関係で、写真撮影と録音することを了承願います。

## 2 あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・ 島会長

みなさまこんにちは。年度末のお忙しいところ、ご参集ありがとうございます。今回の議題は、今年度の事業報告と来年度の事業計画の二つですが、さらにもう一つ、令和5年度以降の当博物館の事業計画についてもあるようです。事業内容も含めてのさまざまな課題を、会議の後半で博物館からの説明があります。

この会議に先立ち、事前研修として、北区内にオープンした新潟市文書館の見学をさせていただきました。北区内に素晴らしい施設が出来たということで期待がふくらみます。今回は令和3年度最後の会議ですので、活発なご意見をよろしく願いいたします。

## 3 あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・ 束理課長

みなさま、こんにちは。本日は年度末のお忙しいところ、お集りいただきまして、ありがとうございます。また、会議の開催に先立ちまして、この1月に北区内にオープンした新潟市文書館を視察していただき、お疲れさまでございました。

今年度3回目となるこのたびの協議会では、今年度の事業報告のほか、分館の解体に伴う休館と、分館の資料を移動して常設展拡大展示コーナーを設営すること等を含む来年度の事業予定について、説明させていただきます。また、木崎村小作争議100周年事業を8月末まで実施するために、恒例の「松蔭賞書道展」と「北区こども科学展」を休止すること、そして日程が休館中にあたることから「博物館まつり」を休止することについても説明させていただきます。

さらには、今後の事業の見直しを含めた令和5年度以降の事業方針などについてもお話しいたします。委員のみなさまから忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、今回の議題にはあげていませんが、長期的視野に立ちますと、いずれ、当館のあり方、方向性などを、委員のみなさまからもご意見をいただきながら、検討を進めていくことになると考えております。ご了承くださいませようをお願いいたします。

## 4 議事

(司会) 島会長から議事の進行をお願いします。

(島会長) それでは議事に入ります。

まずは会議次第の議事(1)令和3年度の新潟市北区郷土博物館事業の報告をお願いします。

### (1) 令和3年度の新潟市北区郷土博物館事業報告

(神田学芸員) 資料に基づき、令和3年度の新潟市北区郷土博物館事業の報告を行う。

(島会長) ただいま、事務局から説明をいただきました。ご意見やご質問がありま

したらお願いします。

### 【質疑応答】

- (本井委員) ・今回に限りませんが、通常の事業も企画展も、せっかく苦勞して形にしているわけですから、広報活動に努力してほしいと思います。新聞もいいですが、特に、テレビという映像でみせる宣伝が、一番効果的かと思います。マスコミにここまで足を運んで取材に来てもらうようお願いするのがいいと思います。
- (北上副会長) ・現在開催している「昭和のくらし—日々をいろどる「食」の風景—」は、親しみやすいテーマ設定に「体験をする」という行為が加わったことで、ただ「資料をみる」だけでなく、見る人がそれぞれの体験や時代背景、日常の生活を思い起こすという構成になっています。つまり、思い出の時空間の創出が、この企画展のおもしろさだと思います。ただ残念なことに、コロナの蔓延防止の時期とも重なり、市民が外出を控えねばならない時期でもあったかと思いますが、これからでもPRを頑張ってください、より多くの人たちに見てもらいたいと思います。
- (倉地委員) ・昨年度の「昭和のくらし展」は、子どもの遊びをテーマとし、『秘密基地』が作られていて、孫と一緒に遊びにきて面白かったのですが、今回は、展示内容も解説文も、子どもには難しいように思われました。解説文にルビがふられています。今回は、大人をターゲットにしているのかなあと、思いながら拝見しました。例えば、市歴史博物館（みなとぴあ）が開催する恒例の「昔のくらし展」では、小学校5年生くらいをターゲットにして継続していますが、こちらの「昭和のくらし展」は、どこに狙いを定めているのでしょうか。
- (齋藤学芸員) ・当館では、冬場に北区内の小学3年生が『かわる道具と昔のくらし』という社会科の授業との関連で見学に来ます。そのため、この時期に「昔の道具」を展示し、見学に対応してきています。しかし、この「昭和のくらし」という企画シリーズは、「昭和」という時代に限定されているため、「昭和」という時代と文化そのものを扱うことになります。「昭和」は、戦争を挟んで60年以上あり、その間の大きな変化を、「道具」の変化だけでは捉えにくいのです。経済成長を背景にした変化を「道具」で示しても、小学校3年生には難し過ぎますし、それはまた、小学3年生のテーマとは違うものになります。

今回は、「昔の道具」という捉え方から視野を拡張させて、「食」という切り口で昭和という時代や社会をみせていく展示にしていますので、子ども向けの展覧会ではありません。展覧会の趣旨や構成をあらわすパネルについては、一般の来館者に向けて書いています。ただし、小学校3年生の見学における「昔の道具」の勉強にも対応できるように、個々の展示資料については、少しかみ砕いた形で書くという工夫を試みています。

- (島会長) ・今年度の二つの美術企画展、「本の読みかた、愛しかた」と「眼と手のあいだ—4人の作家がみつめた風景」は、専門性に富んだ非常に内容の深い濃密な企画であったと思います。
- (小林委員) ・葛塚東小学校校長の小林です。「新潟市北区こども科学展」は、夏休みの宿題として作られた作品の発表の場ということで、博物館から場所も近いものですから、毎回参加させていただいております。
- (貝沼委員) ・博物館実習で受け入れていただき感謝しています。他の館で実習を受けた学生たちと話をする機会がありましたが、特に北区郷土博物館では、地域の博物館の立場や役割とともに、その問題点も明確に示していただいたことがわかりました。大変勉強になりました。  
もう一点、南浜小学校での「学習サポート」について、詳しく教えてください。
- (齋藤学芸員) ・南浜小学校の地域教育コーディネーターを通して「総合学習で、昔の道具（民具）を使って授業をしたい」という相談がありました。当館に児童を連れてきていただき、いろいろな道具をみてもらうというのが望ましいところですが、当館への見学が難しいということで、当方から出向いて行くことになりました。博物館が行う「出前授業」ということではなく、あくまでも先生が授業のなかで本物の道具を使いたいということでしたので、打ち合わせをして道具を持っていき、先生の授業のサポートをするという形をとりました。
- (内山委員) ・濁川小学校は、博物館から遠いので、見学に出かけることが難しいわけですが、いまお話をうかがったように、学校に道具を持ってきていただけるのであれば、学校で授業ができますし、ありがたいことだと思いました。

- (武仲委員) ・学校への学習サポートについてですが、具体的にはどのような資料を扱っているのでしょうか。というのは、いろんな博物館や資料館に出かける機会がありますが、「昔の道具」という括りで展示しているのが、江戸時代の道具から昭和の道具まで一緒になっていて、それらがみな「昔の道具」なのです。私自身も資料館に関わっているので、子どもたちに理解してもらうには、どうしたらよいか、ということが悩みでもあります。
- (齋藤学芸員) ・今回の学習サポートでは、当館が主体ではなく、あくまでも学校が主体で、先生が考えた授業をサポートしたわけです。小学3年生の時点では、まだ歴史の授業をしていないわけで、子どもにとっては、江戸時代も昭和も漠然と「昔」なのです。ですから、子どもにとって一番身近なものから、今と昔の違いを「考えてもらう」というのが先生のねらいでした。それで、食事の道具ということになったのです。具体的には、羽釜、米上げザルなどです。使い方をイメージしてもらうために竈の写真も用意しました。
- 授業は、博物館職員の私が一方的に説明するのではなく、まず子どもたちに道具を「観察してもらう」というところから始まり、先生の質問に沿って「考えてもらう」という進行でした。例えば、今のザルと昔のザルとはどこが違うのか、なぜ穴の大きさが違うのか、ということ。自分の力で「見る」そして「考える」ということが狙いでした。
- (北上副会長) ・学校の授業に対する博物館のサポートという考え方は素晴らしいと思います。ただ、このような形式の取り組みが南浜小学校だけでは残念だと思うのです。もっと広くこの取り組みが広がっていけばいいと思うのですが、PRも含め、どのようにお考えでしょうか。
- (川崎館長) ・今回初めて取り組んだ「学習サポート」というかたちは、学校の授業と連動させるということで、非常に有意義であったと考えています。実はこの取り組みの背景には、旧豊栄市内でこれまで無料で使われていたバスが3月末をもって使えなくなるという事情があります。例年、博物館に見学に来て下さる学校は、この無料バスを利用していましたので、次年度から学校の団体見学が減ってしまうという懸念があるわけです。今後、博物館から学校へ来てほしいという要望が増えることを想定し、その際には、博物館職員が講師として授業をするのではなく、学校の授業に沿った形での「サポート」というスタンスで提案していこうと考え

ました。この取り組みについては、機会を捉えて、校長会などを通して、積極的にアピールしていきたいと思います。

また、本井委員からもPRのことでご意見をいただきましたが、テレビ、新聞などに積極的に働きかけていきたいと思います。

- (島会長)
- ・最後のページの入館者数についてですが、コロナ禍が要因となっているのは、昨年度から変わりなく、どこの館も苦勞しています。そんななかで、この博物館はいろいろ工夫をして本当に頑張っていると思います。

## (2) 令和4年度の新潟市北区郷土博物館事業計画について

- (川崎館長)
- ・第2回目の協議会で、分館内の資料の移動のスケジュールとそれに伴う「令和4年度事業予定」のあらましを説明済であるが、より詳細な館の事業全体について、前回配布資料の変更点などについても説明を行う。

また、分館解体のための事前の資料移動、整理などに伴う休館についての説明。当該年度における「博物館まつり」「松蔭賞書道展」「子ども科学展」の休止について再度説明を行う。

- (島会長)
- ・ただいま、事務局から説明をいただきました。来年度の事業計画のあらましについては、前回の協議会でもお話をうかがいましたが、改めて資料を拝見しますと、実に盛沢山の事業が計画されていることがわかります。ご意見やご質問がありましたらお願いします。

- ・特にご意見がなければ、議事(3)に移ります。

## (3) その他について

- (川崎館長)
- ・令和4年度における分館横井の丘ふるさと資料館の廃止に伴い、本館のホールにおいて「葛塚縞」コーナーを設置することにより、従来の企画展示スペースが半減されます。それとともに、今後想定し得る博物館の体制の変化に適応可能な事業の見直しが必要だと考えています。
  - ・この表は、令和5年度以降の事業展開の案として、現在、博物館で検討しているものです。
  - ・資料に基づいて説明。

- (島会長)
- ・ただいま、事務局から説明をいただきました。  
今後の市全体の視点から、当館の人員体制のことや開館日数、開館時間

のことなどを考えて、この令和5年度の計画書を作成したということです。

縮小されているところもありますが、ただ「減らす」ということではなく、そのスリム化にあたって、新潟市北区郷土博物館のエキスが全部ここに集約されているように思います。

限られたスタッフの皆様方のなかで、北区の博物館の特徴を活かしながら事業展開をしていく将来展望になるわけです。大きなスパンでの計画ですので、具体的な意見を出しにくいかもしれませんが、率直なご感想、ご意見がありましたらお聞かせください。

### 【質疑応答】

(貝沼委員) ・私は、文化地理学の範囲で研究をしていますが、「郷土芸能」を（博物館まつりの一部としてではなく）いよいよ掲げて下さるといのは大変嬉しいことです。これを契機として、民俗、郷土芸能に対して研究する学生が増えることを期待しています。

一つ提案なのですが、地域の芸能だけに特化して行うのではなく、他の地域の郷土芸能保存会の人達に声をかけて、他の地域の郷土芸能もあわせて紹介することを通して、交流を深めていくということが、他の地域ではみられます。

北区郷土博物館では、これまでは、「博物館祭り」として地域の芸能の発表の場という意味合いを持っていたと思いますが、「郷土芸能発表会」と題することによって、より広域で郷土芸能を捉えることが可能になるかと考えます。ぜひ、幅広い見地から、郷土芸能をみられるように検討をお願いしたいです。

(倉地委員) ・北区に限らず全市的な視点で事業をやっていききたいというお話がありましたが、木崎村小作争議については、北区の一地域に限定されない大きな問題を提起しているという点で、非常に注目しています。

事業予定をみますと、講演会や見学会などの事業がだいたい6月で終わるようですが、企画展の期間が8月末まで延期されたこともあり、会期中に、例えば、他施設と連携して、講演会などの事業を中央区など他の地域で行ってもらおうといった事業展開は、外の地域へのよい宣伝にもなりますし、提案したいところです。

(本井委員) ・「書」は、人が手で文字を書くという伝統的な行為に基づいたものであり、松蔭賞書道展については、どんな形になってもいいので、その根の部分

残してほしいと思います。

また、施設の空調設備について申し上げます。相当古い施設がこの館をはじめとして、他にもありますが、必ずしも、無理をして人工的な空調環境を作る必要はないと思います。こうした施設に置かれた資料は、長い年月のなかでの自然の温湿度変化に資料がなじんでいるわけです。空調設備のない施設は、最低限、湿度の変化に気をつけるくらいで十分ではないかと思います。

- (島会長)
- ・それでは、本日予定していた議事につきましては、すべて終了しましたので、事務局に進行をお返しします。

## 5 閉会

(司会)

島会長、ありがとうございました。

委員の皆様、長時間にわたってご審議をいただきありがとうございました。